

2012年10月29日

立野ダム建設「異存なし」返答に厳しく抗議し、撤回を求める
「異存なし」の根拠について、公開の場での知事の県民への説明を求める

立野ダムについては、流域住民、県民への説明がほとんどなされていません。公聴会では、発言した30名全員が、立野ダム建設を求めませんでした。

いま急ぐべきは、住民の安全・安心のための河川改修です。ダム建設に踏み出せば、財政配分上、最も必要で急ぐべき河川改修が後回しになります。

立野ダム建設は、安全性に重大な疑念があり、想定外の洪水には対応できず、熊本市をはじめ下流域に壊滅的な被害をもたらすことが懸念されています。これらについての説明と検証はなされていません。国交省のホームページに、一方的掲載して、「説明した」とは到底通用しないものです。

立野ダムについては、国公省に対して、説明責任を果たさせ、公正な県民参加の討論集会を求めることです。討論集会では、「治水対策のあり方」「コスト」「安全性」「環境」「地域とのかかわり」のテーマごとの検証が必要です。

県民の生命、財産を守るべき県政の最高責任者として、こうした責任を果たさず、「異存なし」との返答は、無責任極まるものであり、厳しく抗議し、撤回を求めます。

知事は、球磨川では、「ダムによらない治水」を主導しながら、白川では、県としての検証も不十分なまま、「ダム建設」を認める態度をとっています。県民には到底理解できないことであり、知事自ら、公開の場で、今回の「異存なし」の根拠について、県民に説明する機会を丁寧に開催することを求めます。